

名寄の寿（豊春名集寿）

へ初春や 四方に日出度き三番叟 福寿ぞろいの蓬萊に へ千歳の
枝のかづしげく へかむろ万歳松の内 祝ひ初めしを数ふれば はや
七草と松ののち へやがてうれしき春霞 富士と筑波の江戸桜 へ
よるの編笠かざしきて 花ある里をたづね尋ねて ここに 思ひを十
寸見桜や 恋桜 へ口説の鳥のにくらしく 帯ひきとめてかし小袖
小袖模様の見づくし へ汐汲みあげし雛の磯 清見江の島うらノ
と 仇なごころに浮む瀬や 誰が来てかけし 駕籠ぶとん へそれ
憎からぬしかた松 常磐の声の樂しさに まつの栄えを祝しける 松
の栄えぞ祝しける。